

武田先生と里山を歩こう会

作成 2025年4月10日(木)

八田佳子 野村美智子

行先	県立明石公園
活動日 天気	2025年4月4日(金) 天気 晴れ
コース概要	明石公園内
集合場所・集合時間	JR 明石駅 10時
解散時間	午後2時半ごろ
参加人数	20名 男性 12名 女性 8名
歩数	12000歩
費用	明石駅前のため不要

兵庫県立明石公園

について

JR 明石駅にある都市公園で桜の季節には剛の池を中心に桜並木がありお花見の季節には多く花見客で賑わっています。ここは桜百選に入っています。
明石城跡の他、広い敷地内をぐるりと回りました。





フジバカマ

アサギマダラは夏から秋にかけて平地で蜜を吸うためにフジバカマを訪れます

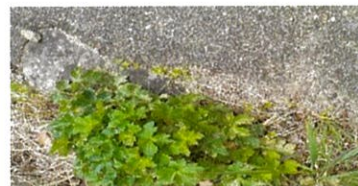


ヒサカキ

サカキに似てサカキではないのでヒサカキ
花の香は独特でガス臭がする



セイヨウタンポポ
セイヨウタンポポ（ガクが反り返っている）
カンサイタンポポ（ガクは反り返っていない）人の手が入るとセイヨウタンポポが増える。



ケキツネノボタン

キンポウゲ科で全草に毒がある。
実はこんぺいとうの形



ヒメオドリコソウ
（シソ科外来種）



オカメザサ

笹という名前がついているが稈から鞘が脱落してしまう種なので竹の仲間



桜「花柄が長くひとつの花芽から複数の花を咲かせる」
梅「花柄が短い」
桃「花柄は短く花は大きい」
アーモンド「花柄が短くガクは反り返らない」
「花はひとつ」
あんず「花が大きくガクが反り返る」



ヒイラギ

若い樹は葉のトゲトゲは多いが老樹になると葉の棘次第に少なくなる。



ニシキギ

枝には板状の翼がある。



明石公園には約1400本の桜があり桜を360度見渡せる剛の池があります。城跡付近の他、普段行くことがあまり少ない公園北側のほうまで歩きいろいろな樹々な草木の説明を受けました。昼食は剛の池を見渡しながらかお花見楽しみました。

2025.4.4 明石公園

太字は先生の説明

1	エノキ	アサ科	エノキ属	落葉高木 樹皮(白灰色) 葉(互生 先は尾状で左右非対称 3行脈) 花(4~5月 雌雄同株) 果実(赤褐色 甘くておいしい) オオムラサキなど多くの昆虫の食樹
2	ムクノキ	アサ科	ムクノキ属	落葉高木 樹皮(網目状の割れ目が入る) 葉(互生 鋭い鋸歯 3行脈 ざらつく) 板根 花(4~5月 雌雄同株) 果実(黒紫色 甘くておいしい)
3	オカメザサ	イネ科	オカメザサ属	常緑タケ類(成長に伴って稈から鞘が脱落するので) 日本原産 タケ類の中で最も小型の種 雌雄同株
4	カクレミノ	ウコギ科	カクレミノ属	常緑小高木 暖地の沿岸地に生育 日陰に強い 葉(互生 3葉脈が目立つ 成長に伴って形が変わるのが大きな特徴) 花(6~7月 雌雄同株 黄緑色の小花) 果実(1cm 黒色)
5	フラサバソウ	オオバコ科	クワガタソウ属	越年草 草丈10~20cm ヨーロッパ原産 茎(地面に這う) 葉(互生 1~2対の鋸歯) 別名「ツタバイヌフグリ」 全草に白毛 花(春 薄紫色 葉と葉の間に挟まるように花を付ける)
6	ムラサキカタバミ	カタバミ科	カタバミ属	多年草 南アメリカ原産 江戸時代に渡来 要注意外来生物 草丈30cm 葉(根生三出複葉 ハート形) 花(5弁花 青みのある桃色)
7	カンサイタンポポ	キク科	タンポポ属	多年草 在来種 茎(中空) 花(2~3cm セイヨウタンポポに比べて頭花が小さい) 総苞外被(反り返らない) 気温の境目約18℃ 二倍体タンポポ
8	セイヨウタンポポ	キク科	タンポポ属	多年草 ヨーロッパ原産 総苞外被(反り返る) 気温の境目約13℃ 三倍体タンポポ
9	ニホンタンポポ	キク科	タンポポ属	多年草 在来種 花(3.5~4cm) 総苞外被(反り返らない) 二倍体タンポポ
10	ヒヨドリバナ	キク科	ヒヨドリバナ属	多年草 在来種 茎(まっすぐ伸び有毛でざらつく) 葉(対生 質が薄く鋸歯あり 両面に毛あり 裏腺点多数ある 6~18cm) 花(8~9月 筒状の5つの小花の集合) アサギマダラ
11	フジバカマ	キク科	ヒヨドリバナ属	多年草 中国原産 秋の七草 薬用 茎(株立ち) 葉(新芽は赤っぽい 3つに裂ける 輪生) アサギマダラ 花(8~9月 筒状花が密生) 乾燥させた葉は桜餅のような芳香あり
12	ケイツネノボタン	キンボウゲ科	キンボウゲ属	多年草 草丈30~50cm 湿り気のある土地に生育 葉(3出複葉) 花(5~7月 光沢のある黄色い5弁花) 全草有毒 ケイツネノボタンに似て毛が全体に生えている事からの名
13	ヤブニッケイ	クスノキ科	クスノキ属	常緑高木 樹皮(灰黒色 滑らか) 葉(亜対生 3行脈 裏無毛) 花(6~7月 淡黄緑色の小さな花) 果実(黒紫色 香油が採れる) 葉や樹皮にシナモンの芳香あり
14	ムラサキサギゴケ	サギゴケ科	サギゴケ属	多年草 日当たりの良い場所に生育 匍匐茎で群生 花(4~6月 唇形花) トキワハゼ(ハエドクソウ科)に似るが花の大きさは3倍
15	ヒメオドリコソウ	シソ科	オドリコソウ属	越年草 草丈10~25cm ヨーロッパ原産 明治に渡来 茎(四角形) 葉(対生 紫紅色の包葉) 花(赤紫色の唇形) 在来種のオドリコソウより小さい
16	トラベ	トラベ科	トラベ属	常緑低木 暖地の海岸近くの林に生育 木全体に臭気あり 葉(互生だが車輪状に枝先に集まる 葉の縁が内側に反り返る) 花(4~6月 雌雄異株)
17	ニシキギ	ニシキギ科	ニシキギ属	落葉低木 枝(十字対生 板状の翼が発達) 葉(対生 鮮やかな紅葉) 花(5~6月 淡黄緑色の小さな4弁花) 果実(赤色で垂れ下がる) 見事な紅葉「錦の木」からの和名 薬用
18	マサキ	ニシキギ科	ニシキギ属	常緑低木 海岸近くの林に生育 葉(対生 厚く革質で光沢あり) 花(6~7月 多数の緑白色の小花) 果実(球形 種子4粒が飛び出す) 生垣・庭木
19	アキニレ	ニレ科	ニレ属	落葉高木 湿った所に生育 ハルニレと比べると小型で葉も小さい和名 「秋楡」(初秋に花が咲く) 葉(互生 二重鋸歯) 花(9月 淡緑色) 果実(11月 翼果)

20	カリン	バラ科	カリン属	落葉高木 中国から渡来 樹皮(滑らかでうろこ状に剥がれる) 葉(互生 質は堅くしっかり) 花(3~5月 しろ・淡紅色の5弁花) 果実(ナシ状果 石細胞 芳香あり) 薬用
21	ナワシロイチゴ	バラ科	キイチゴ属	落葉低木 茎(木立性と匍匐性 刺有り) 葉(互生 3出複葉 裏白い綿毛が密集) 食用 花(5~7月 淡紅紫色の5弁花) 果実(6~7月 赤い実)
22	ソメイヨシノ	バラ科	サクラ属	落葉高木 母をエドヒガン、父を日本固有種のおオシマザクラの栽培品種 クローン 江戸時代に開発
23	ユキヤナギ	バラ科	シモツケ属	落葉低木 日本原産 (自生種は石川県で絶滅危惧Ⅰ類に指定) 「雪柳」 株立ち 花(4月 5弁で白色の小さな花) 公園樹・庭園樹
24	ラクウショウ	ヒノキ科	ヌマスギ属	落葉高木針葉樹 アメリカ南東部 別名ヌマスギ 長命 呼吸根 葉(メタセコイアより幅が狭く互生 葉の長さが1~2cm) 球果(メタセコイアより大きい) 雌雄同株
25	カロリナアオイゴケ	ヒルガオ科	アオイゴケ属	多年草 北米原産 草丈2~3cm 茎(地を這う) 葉(15~20mm 円心形) 花(4~8月 白色2~3mm) 低毒性の植物
26	アベマキ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 全体的にクヌギに似るが幹の様子は全く異なる 葉(互生 裏星状毛が密生 針状鋸歯) 花(4~5月 雌雄同株) 菌根形成 コルク層が発達 ナラ枯れ(カシノナガキクイムシ) 材・食用・薬用
27	ウバメガシ	ブナ科	コナラ属	常緑低木~高木 海岸近くの林に生育 樹皮(褐色で大きくひび割れる) 葉(互生 枝先に輪生状に付く) 花(4~5月 雌雄同株) 菌根を形成 備長炭
28	カラスノエンドウ	マメ科	ソラマメ属	1年草・越年草 草丈60~150cm 茎(四角柱状 有毛) 葉(互生 偶数羽状複葉 巻きひげ) 花(3~6月 10~15mm 赤紫色の蝶型) 豆果(黒色) アリと共生関係 別名ヤハズエンドウ
29	カラタチ	ミカン科	ミカン属	落葉低木 中国原産 和名は「唐橘」がつまったもの 奈良時代に渡来 枝(緑色 稜角あり 基部が広い3cmの大きな棘が互生) 葉(互生 3出複葉 葉柄に翼) 花(4~5月 白い5弁花) 食用・薬用 アゲハチョウの幼虫の食草
30	サンシュユ	ミズキ科	ミズキ属	落葉小高木 中国原産 江戸に渡来 葉(互生 裏有毛) 花(3~4月 鮮黄色の小花 葉が開くよりも先に開花) 食用・薬用 果実(グミのような実) 別名「春黄金花(はるこがねばな)」
31	キュウリグサ	ムラサキ科	キュウリグサ属	越年草 草丈15~30cm 葉を揉むとキュウリの匂いがすることからの名 葉(白い毛) 花(3~5月 淡青紫色の5弁花 2mm サソリ型花序)
32	トウネズミモチ	モクセイ科	イボタノキ属	常緑高木 葉(厚く光沢あり 葉脈の主脈も側脈もが透けて見える) 花(6~7月 黄白色) 果実(12月 紫黒色 球形に近い)
33	ヒイラギ	モクセイ科	モクセイ属	常緑小高木 日本原産 葉(対生 濃緑色) 果実(黒色) 花(10~12月 雌雄異株 芳香のある白い小花を密生) 葉の棘は動物の食害を防ぐために作られるので、その心配のない環境や木の上部の葉では棘の無い葉ができる クリスマスリースに使うのはセイヨウヒイラギ(モチノキ科 果実赤色) 節分に厄除けに使用
34	シナレンギョウ	モクセイ科	レンギョウ属	落葉低木 中国原産 株立ち 葉(対生) 花(雌雄異株 葉の展開と同時に 4裂の鮮黄色) チョウセンレンギョウ(朝鮮原産 枝が弓なり 葉の展開前に開花)
35	モチノキ	モチノキ科	モチノキ属	常緑中高木 暖地の海辺に自生 葉(互生 革質) 花(4月 雌雄異株 性転換する特性) 果実(赤色) 天敵(モチノキタネオナゴコバチ) トリモチを採取
36	ヒサカキ	モッコク科	ヒサカキ属	常緑小高木 サカキ(鋸歯無し)より小型 葉(互生 丸い鋸歯) 花(3~4月 雌雄異株 壺状の5弁花で下向きに多数付く 淡黄色 都市ガスのような独特の強い芳香を放つ) 果実(10~12月 黒紫色) サカキの代用で神事に用いるが仏事にも用いられる
37	ヤマモモ	ヤマモモ科	ヤマモモ属	常緑大高木 山地の暖地に生育 葉(密に互生 束生 革質) 花(3~4月 雌雄異株 目立たない花) 果実(6~7月 暗赤色 球形で粒状突起が目立つ) 食用・薬用

鳥網

1	カワウ (写真29 30 33 34)	ウ科	ウ属	全長81cm 留鳥 魚取りが上手 水に濡れた翼を大きく広げて乾かすくちばしが鉤型 水かきあり 巣は樹上で枝を組んで作る 分布拡大による問題が起こっている
2	カイツブリ (写真27)	カイツブリ科	カイツブリ属	全長26cm 水草を集めて浮巢で子育て 足に水かきで潜水が得意 琵琶湖に昔から多い 天敵ブラックバス
3	カンムリカイツブリ (写真31)	カイツブリ科	カンムリカイツブリ属	全長56cm 水草を集めて浮巢で子育て 日本には冬鳥として渡来 群生が強い 潜水して小魚類を捕らえ主食にする
4	カルガモ (写真28)	カモ科	マガモ属	全長60cm 留鳥 渡りをせずいつも身近にいるカモ 雄雌同色 草の葉・茎・実などを主食にする マガモより体重が軽いことからの名
5	ヒドリガモ (写真35)	カモ科	ヨシガモ属	全長48cm 冬鳥 アマモ・エビモ・アオノリ・アオサなど海藻が大好きな緋色の顔をしたカモ
6	ユリカモメ (写真36 37)	カモメ科	ユリカモメ属	全長40cm 冬鳥 赤いくちばしと脚が目立つ白色が鮮やかなカモメ 何でも食べる逞しさあり 4月頃には頭が頭巾をかぶったように黒くなる 和歌にも登場
7	ハシボソガラス (写真32)	カラス科	カラス属	全長50cm 留鳥 歩くのが大好き お辞儀をしながら「ガーガー」 光沢を持つ黒色の羽 なんでも食べる 農耕地や田園地帯に生育
8	オオバン (写真26)	クイナ科	オオバン属	全長39cm 留鳥/漂鳥 頭をフリフリ泳ぐ真っ黒い鳥 白い額とくちばしがトレードマーク 池沼に生育
9	アオサギ (写真24 25)	サギ科	アオサギ属	全長93cm 留鳥 日本で繁殖する最大のサギ 青みがかった灰色の羽毛で覆われているからアオサギ 動物食

梅・桃・桜を見分ける方法



1月下旬～4月下旬

3月中旬～4月下旬

3月中旬～5月上旬



花びらの先が丸い



花びらの先が尖っている



花びらの先が割れている



花軸がない

1節に1花



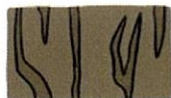
花軸が短い

1節に2花

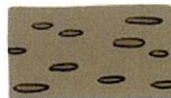


花軸が長い

1節に多花
下向きに咲く



幹は黒くてザラザラ



幹は白っぽくてツルツル



幹は赤茶色でシマシマ



梅



桃



桜

真っ赤で大きく反り返る萼
樹皮に縦の筋
↓



アーモンド

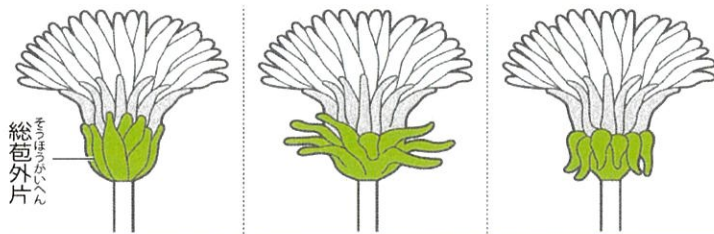


香

小さく緑色の萼
切れ込みのある5枚の花弁 →
中心濃い紅色

タンポポの見分け方

※タンポポ調査・西日本実行委員会の資料を基に作成。雑種の確定は詳細な調査が必要になる



カンサイタンポポ
(在来種)

雑種

セイヨウタンポポ
(外来種)

総苞外片が……

上向きで
くっついている

横向きで
離れている

下向きに
反り返っている

在来種タンポポはなぜ減少したのか
外来種セイヨウタンポポの広まりから
雑種の登場まで

<https://buna.info/article/3704/>

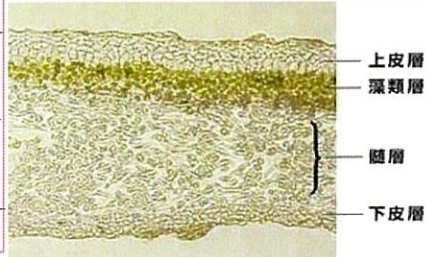
タンポポ調査西日本

タンポポ調査西日本 | 大阪自然環境保全
協会

地衣類

地衣類とまちがえやすい生きもの

	地衣類	コケ類	菌類
からだの細胞	菌と藻の細胞	葉緑体を含んだ細胞	菌糸
外形	茎、葉の区別なし 固着、樹枝状、葉状	茎と葉の区別がある 茎葉体、葉状体	茎も葉もない 菌糸の塊、キノコ
色	灰色、黄緑、橙色など	緑色	肌色、茶色など
ふえかた	胞子、粉芽、裂芽	主として胞子	胞子、粉子など
分類学上の位置	菌界	植物界	菌界



地衣類とは、菌類の仲間で、必ず藻類と共生しているという特徴を持っています。菌類は、藻類と共生すると"地衣体"と呼ばれる特殊なからだを作ります。そして、地衣類を構成している菌と藻は、互いに助け合って生活しています。菌類は藻類に安定した住み家と生活に必要な水分を与えるかわりに、藻類が光合成で作った栄養（炭水化物）を利用して生活します。両者の共生関係は非常に密接で、地衣体の形態、生理機能、繁殖のしかたなどは単独の生物と同じように遺伝します。つまり、あたかも独立した生物のように見えるというわけです。

地衣類は、他の生物が生育できないような厳しい環境下でも生活できます。一年の半分が暗黒で、酷寒の世界となる南極圏や北極圏、そして乾燥、低温、強風などにさらされるヒマラヤやアンデス山地などの高山にも地衣類は多く、何年間も雨の降らない砂漠にも地衣類の群落が見られます。地衣類がこのような過酷な条件下でも生活できるのは、地衣類はもともと乾燥や低温、高温に耐える能力が高いうえ、低温、乾燥などにさらされると呼吸量を極端に少なくして、エネルギーの消耗をおさえたまま、何年間も耐えられる能力を持っているからです

地衣類は世界中に広く分布し、世界で約2万種、日本では約1800種が知られています。

絶滅のおそれのある地衣類 地衣類は南極や高山、砂漠などの厳しい環境に耐えて生活できるものが多い一方、大気汚染や都市化による環境の変化に対する耐性は非常に低く、わずかな環境の変化でも簡単に死滅したり、個体数が極端に減少してしまいます。この性質を利用して、大気汚染の指標生物としても利用されています。2017年の環境省レッドリストでは、絶滅4種、絶滅危惧I類41種、絶滅危惧II類20種、準絶滅危惧42種、情報不足46種が掲載されています。

2025.4.4 明石公園



1 カンサイタンポポ



2 ソメイヨシノ



3 ソメイヨシノ



4 トベラ



5 ニシキギ



6 ヒイラギ



7 ヒサカキ



8 ヒサカキ 花



9 ウバメガシ



10 ムラサキサギゴケ



11 ムラサキサギゴケ



12 ヤブツバキ



13 ヤブツバキ



14 ヤマモモ



15 ヤマモモ



16 シナレンギョウ



17 ユキヤナギ



18 カクレミノ



19 カラタチ



20 カリンの樹皮



21 カリン



22 モチノキ



23モチノキ林



24 アオサギ



25 アオサギ



26 オオバン



27 カイツブリ



28 カルガモ



29 カワウ



30 カワウ



31 カンムリカイツブリ



32 ハシボソガラス



33 34 カワウの巣



35 ヒドリガモ



36 ユリカモメ



37 ユリカモメ



